

2022年8月1日09:30 (日本時間) / 00:30 (協定世界時) まで公開禁止

auじぶん銀行 日本製造業PMI®

7月の製造業PMIは10か月間で最も低い水準に低下

主な動向

生産高と新規受注数は再び減少

需要低迷を受け、受注残は17か月ぶりの弱い伸び

価格高騰と納期長期化が在庫積み増しを加速

2022年7月のデータ収集期間：2022年7月12～22日。

日本の製造業は7月、主要PMI指数が10か月ぶりの低水準に低下し、業況の改善が鈍化したことを指摘した。生産高は5か月ぶり、新規受注数は10か月ぶりに縮小に転じ、新規受注数の減少は2020年11月以来最大だった。しかし、企業らが引き続き人員を増強していることに加えて売上低迷も影響し、受注残増加ペースは著しく緩やかになった。インフレと供給網問題は第3四半期に入っても収まらず、購買品や完成品在庫の増強加速につながり、購買品においては調査史上2番目のペースで増加をみせた。

7月の主要指数のauじぶん銀行日本製造業購買担当者指数™(PMI) (製造業の全体的業況を表す指標)は、6月の52.7から52.1へ減少し、2021年9月以来の最低値を記録するも、18か月間に及び業況改善を示した。生産高と新規受注数がさらに減少し指数を圧迫する中、PMIが変化なしを示す50.0の水準を上回ったのは、雇用の増加、在庫増強、そしてサプライヤー納期の悪化に起因する。

第3四半期に入り、生産高と新規受注数は共に再び減少。企業の多くはこの要因に高まるインフレ圧力と原材料不足を挙げ、結果生産高は5か月ぶり、需要は10か月ぶりの減少につながった。

同時に新規輸出売上は7月も減少し、減少傾向は5か月連続に及ぶ。しかし、縮小率は5か月間で最も小さく小幅だった。海外売上は、主な輸出先である中国や韓国といったアジア太平洋市場で需要が低迷していることを受け、伸び悩んだ。

2022年下半年に入り、購買コストのインフレが加速。全体的に急激な価格上昇で調査史上6番目の上昇率だった。製造業は急上昇する原材料コスト、特に円安を受け輸入品で影響が大きかったことを購買価格高騰の要因に挙げた。同時に、企業が間接費増加分を顧客に転嫁しようとしたため、製品の平均販売単価は緩やかながらも顕著に上昇した。

7月もインフレ圧力とサプライチェーンの混乱は収まらず、製造業の事業活動を圧迫した。平均納期の長期化はこの1年間で最も緩やか

(次頁に続く)

auじぶん銀行 日本製造業PMI
季節調整済み、>50 = 前月比で改善

出典：auじぶん銀行、S&Pグローバル

コメント

S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス、Usamah Bhattiによる最新調査結果についてのコメント

「今年下半期に入り、日本の製造業では業況に緩やかな回復がみられた。しかし、主要PMIからは見えない、業況下振れのリスクを示唆する懸念すべき傾向が一部の指数に影を落としていた。新規受注数は10か月ぶりに減少。2020年11月以来最も速いペースで、2月以来の生産高縮小につながった。

需要の低迷により生産能力に対する圧力が低下した。受注残の増加率は17か月ぶりとなる低水準を記録。今後数か月にわたり生産高が減少することを示唆している。

企業の実態からも分かる通り、日本の製造業では在庫の積み増しが加速した。企業らは、価格高騰と納期長期化が購買活動や原材料及びその他購買品の在庫増強につながったことを指摘。また、物流問題の改善がみられるまで、納期長期化の対応策として製造業が完成品在庫を保持したことを示唆した。

今後一年にわたる生産高の見通しについて、企業らは6月とほぼ変わらず強気な姿勢を維持した。しかし、価格高騰と供給圧力によって高まる下振れのリスクは依然として明確だった。S&Pグローバルは、2022年の製造業生産高の成長は0.2%増に留まると予測。パンデミックで落ち込んだ生産高を2024年初めまでに取り戻す可能性は低いことを意味する。」

だったものの、全体的には大幅な悪化ペースだった。納入遅延に対応するため製造業は活発な購買活動を行い、安全在庫の増強に努めた。これにより、購買品在庫は調査史上2番目の上昇率を記録した。一方、企業らは価格高騰対策として完成品の積み増しに努め、完成品在庫は2009年2月以来最大のペースで増加した。

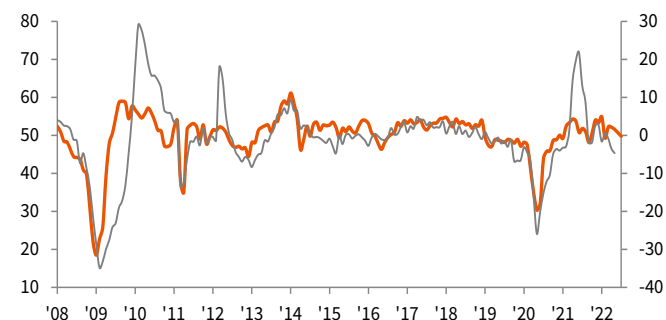
新規受注数の減少により生産能力の圧力は弱まり、一部の製造業は未完成品を遅滞なく完了することが可能となった。そのため、受注残は17か月連続増加する中、7月は最も緩やかな伸びとなった。一方、雇用者数の増加ペースは4月以来の低水準だった。

今後1年にわたる生産高の見通しについては、企業らは変わらず楽観的な姿勢を維持。景況感、インフレや供給網問題、円安圧力が緩和され、需要と生産高で広く回復がみられるとの期待に後押しされていた。

PMI生産高指数

季節調整済み、>50 = 前月比で増加

製造業生産高
前年比 (%)



出典: auじぶん銀行、S&Pグローバル、経産省

お問い合わせはこちらどうぞ

auじぶん銀行

Grp-S-I-Room@jibunbank.co.jp

Usamah Bhatti

エコノミスト

S&Pグローバル・マーケット・

インテリジェンス

電話: +44 1344 328 370

usamah.bhatti@spglobal.com

SungHa Park

コーポレートコミュニケーションズ

S&Pグローバル・インク

電話: +82 2 6001 3128

sungha.park@spglobal.com

調査方法

auじぶん銀行日本製造業PMI®は、S&Pグローバルが製造業約400社の購買担当者へ毎月調査を行い、その回答をもとにまとめています。調査対象企業は、GDPへの貢献度に従い産業セクターおよび従業員数別に階層化されています。

調査回答は前月比での変化を示すもので、各月の後半に収集されます。これにもとづき、サブインデックスごとの拡散指数(ディフュージョン・インデックス)を算出します。各指数は「増加/上昇」と回答した企業の比率と、「同じ」と回答した企業の比率の半分の合計です。数値は0~100の間で変動し、50を超えれば前月比で全体として増加したことを、50を割り込めば全体として減少したことを意味します。そのうえで指数に季節調整が加えられます。

主要指数は購買担当者指数™(PMI)です。PMIは次の5つのサブインデックスの加重平均です: 新規受注(30%)、生産高(25%)、雇用(20%)、サプライヤー納期(15%)、購買品在庫(10%)。ただしサプライヤー納期指数は、結果として得られる数値が他の指数と比較可能になる計算方法で算出しています。

基本的調査データは発表後に修正されることはありません。ただし季節調整要因は必要に応じて修正されることがあり、その場合は季節調整済みデータに影響が及びます。

2022年7月のデータ収集期間: 2022年7月12~22日。

PMI調査方法の詳細は、economics@ihsmarkit.comへお問い合わせください。

免責事項

ここに提供するデータの知的所有権はS&Pグローバル・インクに帰属し、もしくは使用が許諾されています。当データのいかなる部分についても複製、配布、伝達またはその他の行為を含む無許可の使用は、S&Pグローバル・インクから事前の承諾がない限り認められません。S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は、当レポートの内容またはそこに含まれる情報(「データ」)、データ上のいかなる間違い、不正確な記述、脱漏、遅延による、またはそれに関連した責任、義務、負担のいずれをも負うものでなく、またこれにもとづきとられたいかなる行為についても責任、義務、負担のいずれをも負いません。当データの使用によって生じるいかなる特殊、偶発的もしくは間接的損害についても、S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。Purchasing Managers' Index™およびPMI®はMarkit Economics Limitedの登録商標、もしくはMarkit Economics Limitedの使用が許諾されたものです。S&P GlobalはS&P Global Ltd.及び/又はその関連会社の登録商標です。

ここに提供するコンテンツは、S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンスが公開しています。S&Pグローバル・インクの別部門であるS&Pグローバル・レーティングが公開するコンテンツではありません。関係当事者から書面による事前の許可がない限り、形態を問わず、評価を含むいかなる情報、データ、資料(「コンテンツ」)の複製を禁止しています。関係当事者、関連会社、サプライヤー(「コンテンツプロバイダー」)は、コンテンツの正確性、妥当性、完全性、適時性、可用性を保証しません。また、いかなる間違いや脱漏(疎漏など)、あるいは当該コンテンツの使用により生じた結果に対して責任を負いません。コンテンツのいかなる使用に関連するあらゆる損害、コスト、費用、弁護士費用、または損失(喪失利益や逸失利益、機会費用など)について、コンテンツプロバイダーは一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

auじぶん銀行日本PMIのスポンサーは

auじぶん銀行株式会社です

auじぶん銀行は2008年にKDDIと三菱UFJ銀行の共同出資により設立されたネット専門銀行です。「手のひらにある銀行」として、口座・金融商品・決済などに関して、スマホユーザー視点でサービス展開をしております。キャッシュカードなしで入出金が可能な「スマホATM」、為替相場の動きを予測する「AI外貨予測」、Amazon Alexaへの対応など、ユーザーエクスペリエンスを豊かにするために様々な取り組みを行っています。

S&Pグローバルについて

S&Pグローバル・インク(NYSE: SPGI)は、必要不可欠なインテリジェンスを提供します。適切なデータ、専門知識、コネクテッドテクノロジーの提供により、政府機関、企業、個人が確信を持って意思決定を行うことを可能にします。新規投資案件の評価から、サプライチェーンにおけるESGやエネルギー・トランジションまで、世界中において新たな機会を発掘し、課題を解決し、成長を加速させます。

世界の資本市場、コモデティ市場、自動車市場において、信用格付け、ベンチマーク分析、ワークフローソリューションを提供し、グローバルのお客様の成長発展を支援します。詳細についてはウェブサイトをご覧ください: www.spglobal.com

S&Pグローバルのプレスリリースを受け取りたくない場合は、katherine.smith@spglobal.comへお知らせください。弊社のプライバシーポリシーは、[ここをクリック](#)してください。

PMI(購買担当者指数)

「購買担当者指数™(PMI®)」調査は現在、40を超える国々およびユーロ圏等主要地域で実施されています。世界で最も注目される景況調査として、各国中央銀行、金融市場、企業経営者の方々より、経済動向を知るための正確でユニークな最新月間指標としてご利用いただいております。詳しくは、ihsmarkit.com/products/pmi.htmlをご覧ください。